

金蔵院(比企郡吉見町)









金蔵院山門左側の宝篋印塔(1373年造立)



笠と塔身が二つずつあることから「二重式宝篋印塔」と呼ばれる

















# 金藏院宝篋印塔（埼玉県指定史跡）

金藏院山門の左側にあつて「応安六年（一三七三年）の銘があります。四隅に突起のある笠と、真四角の塔身が二つずつあることから二重式宝篋印塔と呼ばれますが、現在では笠の四隅にあつた突起と欠損箇所がみられます。伝大車次郎重親塔ともとも昭和五年三月と史跡として埼玉県の指定を受けました。

宝篋印塔とは鎌倉時代の中ごろ（約七〇〇年前）から造られ始めた密教系の石造塔です。本来は塔の中へ経文や仏舎利を納め礼拝供養を行うための供養塔でしたが、後の時代には、墓碑として造立する例も見られるようになった。

金藏院毘沙門堂は、大車次郎の建立で本尊は行基の作と伝えられています。当時は七堂伽藍が並み立ち、現在存する光厳寺・応性寺・音聲通り等の小字名は、その名残りとはいわれています。

平成十二年三月

吉見町教育委員会

伝大串次郎重親塔（埼玉県指定史跡）

金蔵院の西方約七〇メートルの畑の中にある宝篋印塔は、平安時代末（約八〇〇年前）の源平の争乱で富山重忠とともに活躍した大串次郎重親の墓といふ伝承があることから、伝大串次郎重親塔と呼ばれています。この宝篋印塔の高さは一九メートルで、「永和二年（一三七六年）沙弥隆保」の銘があり、昭和五年三月と史跡として埼玉県の指定を受けました。二重式の宝篋印塔という珍しい形式に加え、造立から六〇〇年以上の年月が経過しているにもかかわらず保存状態は大変良好で、塔全体のバランスも非常によく整っています。全国的にもこのよ様な状況で現存している宝篋印塔は珍しいため、昭和十三年には重要美術品として国の指定を受けただけではありません。



沢山の板碑もある









ここをまっすぐに進んだ畑の中にメインの宝篋印塔がる







これが伝大串次郎重親の二重式宝篋印塔(1376年造立)















境内にはこんな祠もあった





唐破風のスタイル



